

電化の家庭が多く、1世帯1栽培も楽しめる。ぜひ家庭に植え付けた。1〜2カ月」と話した。

(中村真理) 発足。市内の事業所・機関

緊急銃猟「情報共有が重要」

クマ出没想定 越前市で県訓練

クマが市街地に出没した際に自治体の判断で発砲を認める「緊急銃猟」を想定した県の対応訓練が21日、越前市錦町の日野川河川敷などであった。県や各市町、県警などの関係者約90人が参加。役割分担や人員の配置、発砲時の安全確保の手段を確認し、関係機関の連携を強化した。

(畠中 大介)

訓練は、車を運転中の人が市街地近くの日野川河川敷で成獣1頭を目撃し、1時間後に同所で寝ているところをパトロール中の市職員が見つけたとの想定。関係機関との連絡体制や住民への周知、人員の配置などを確認する机上訓練の後、実地訓練を行った。

越前市の職員を中心に、県職員の助言や支援を受けて本番さながらに実施。県内の訓練では初めて自治体

が所有するドローンを導入し、県と越前市の2台を飛ばして職員が扮したクマが潜伏する場所を探した。

河川敷左岸の茂みに潜むクマを発見した後は、屋内避難の呼びかけや通行制限、発砲する場所を決めるなど緊急銃猟に向けた流れを確認。証票(ゼッケン)を着けた捕獲隊員が現場に向かい、20〜30分離れたクマに模擬銃を向けて発砲する動作を取った。参加者は

死んだことを確かめるまでの動きを緊張感を持って取り組んでいた。

訓練の後の講評では、参加者たちから「茂みが多く目視するのが難しい状態だった」「情報共有がうまくできていなかった」など課題を指摘する声が上がった。実地訓練の現場指揮を担当した市農林整備課の小嶋雅則課長は「情報共有が非常に重要だと感じた。関係機関と日頃からコミュニケーションを取っておくことで、実際の場面でも連携できると思う」と話した。

県によると、昨年度の県内のクマ出没件数は950件で、過去5年間で最多となった。



訓練で模擬銃を使って緊急銃猟を実施する捕獲隊員。越前市錦町で

補助資料②

一般質問補助資料 細川かをり



補助資料③
一般質問補助資料
細川かをり

